



## 科学生活城ーテクノロジーと日常生活の融合 テクノロジーと人文芸術の融合

### 南科公共芸術設置計画

南科は昔日のサトウキビ畑から現在のテクノロジー中心地に至るまで、常に社会の経済発展の中心を担い、テクノロジーと人文芸術の融合と対話を重要視してきた。2004年蔚龍芸術株式会社に全体的な園區設計を委託し、幾度なく行われてきたチームミーティングを経て、「園区内の生活品質を引き上げ、人々がより幸福を感じ、南科人となることを誇りにし、国際的にアピールできる」ことを公共芸術設置の目指す目標とし、公共芸術が「日常生活の中から趣を、テクノロジーの中から驚きを」設置の効果と定めた。

公共芸術設置理念に従い、将来において逐次園区内出入り口広場・電力設備・貯水タンク・浄水場・道路舗装・橋梁造形と道路橋桁等の施設と空間の美化修飾を行い、海外の芸術村に似た要請方式を採用し、芸術家達に活動の空間を与えよりよい作品の創出を望む。

全体の規格案が国科会公共芸術審議委員会の審議を通り、園区内公共技術は時期と区域とを分けて2007年末までに漸続的に設置される。未来において、南台湾にて南科の公共芸術設置により、国際レベルに達した優れた生活空間が増すことになろう。





### 国立台湾史前文化博物館南科分館設置計画

南科設置予定地より出土した埋蔵物の保存は、教育部が開催した4回の準備会議での討論決議により、2004年4月9日道爺湖北側公園に、国立台湾史前文化博物館南科分館を設置し保管が決定されている。国立史前館は既に2004年11月にこの件についての企画報告書を仕上げ、政府機関行政院に報告し審査を待たれている。

将来において南過分館が南科設置予定地より出土した文化資産の保存・研究や注釈、展示を中心に活動していく。また、遺跡周辺に動線を配し、自転車歩道や遊覧小型バスの設置、博物館と園区間とを密接な体験型関係を作り上げ、先進的なテクノロジーで古代の史前文化を再現させていく。南科分館は必ず南科の文化的な発信地となり、テクノロジーと人文との発展の均衡をとり、南科コミュニティーの技術者と生活住民に知的で心安らく場を提供することとなる。



> 国立台湾史前文化博物館南科分館設置予定図



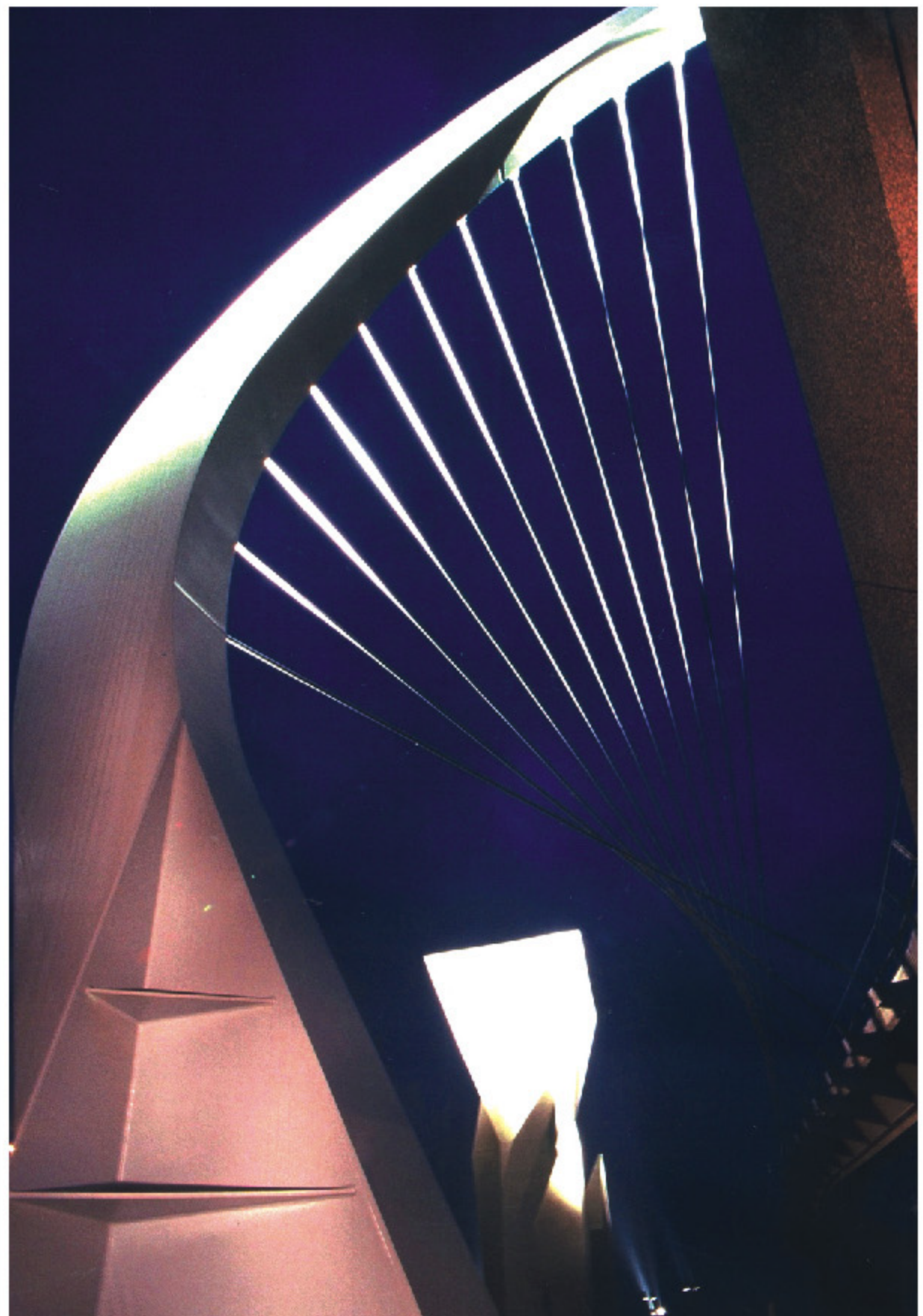


> 西拉雅広場

### 南瀛建築文化建築賞受賞

台南県政府は県民がより生活環境・生活空間の改善などに興味を持ち、県経営の参加を呼びかけるために、2004年3月から7月間に第一回南瀛建築文化賞の募集を呼びかけた。その上、一連のイベント活動を開催している。第一段階は147件もの推薦作品の中から入選作品20件が選出された。南科公八公園(西拉雅広場と命名)・一期VIP管理職用宿舎と西拉雅大通りにそれぞれ意匠造形芸術作品3つが置かれる。新しいデザイン手法を用い、建築デザイン専門家達の興味を引き、入選された西拉雅大通り入り口に置かれる意匠造形芸術は、更に「南瀛建築文化大賞」を受賞された。

西拉雅大通り入り口に置かれた意匠芸術のデザイン理念は、公共芸術から出発されている。貯水タンクの量的体積を緩和し、タンクをいくつかの主従関係量体として組み合わせ、折線造形を模し蓮の蕾の意匠を作り上げている。50メートルある西拉雅大通りを横切る歩道橋は、軽快な力学的で美学を兼ね備えられた斜張橋を用い、その特殊な構造を十分に表している。貯水タンクと巧妙な対比を織り成し、園区内にあるハイテクノロジーの雰囲気と呼応し、台南園区東出入口の特徴を作り出している。



> 西拉雅大通り出入口意匠芸術